

孫たちと爺々のオリエンテーリング NO. 41

渡辺幸・綺羅・来生と武石雄市

海にはサンゴ、陸にはムベの自生とタブの巨木群生。環境省の清掃事業できれいになった西海岸。世界の皆さん、海にゴミを捨てないでください。日本海に浮かぶ不思議アイランドの飛島。ラッキー！グリーンフラッシュを見た。

夏休み修行は飛島

孫たちを恒例の夏休み修行に連れ出した。去年までは鳥海山や月山で山歩きがベースだったが、今回は海、中3でサッカーの部活がなくなった幸も行くことになり、例年より修行期間をグーンと短縮して8月5-7日の2泊3日に決まった。

場所は日本海の離島、山形県酒田市の北西40kmに浮かぶ飛島(とびしま)。島は周囲12km、日本有数の野鳥飛来地であり潮流(黒潮)の影響で熱帯性動植物の自生北限地の種類も多い。

連絡定期船は日に1便(8月は2便)。



飛島(手前の島)と対岸の鳥海山

オリエン道具を携行

飛島の人口は600名を超えていて立派な小・中学校もある。しかし義務教育該当の児童・生徒は0名である。

就学年齢になったら皆、子供の教育を優先し、学業と生活が便利な対岸の酒田市に引っ越してしまうためだ。

初日、島に上陸したら小学生の子供たちを見かけた。全島が鳥海国定公園なので家族観光客と思いきや、夏休みで祖父母の下に帰省中なそうなの。

爺々 ゆき、折角、コンパスやフラッグ・パンチ、コントロールカードなど持ってきたので何人が誘ってオリエンテー



島の散策マップでオリエンテーリング、・・・は来生のルートチョイス

リングの初心者講習でもしたいね」
ゆき 爺々、地図はあるの？」
爺々 国土地理院発行の2万5千分の一を縮尺半分にコピーしてきたけど、酒田の待合室で手に入れた散策マップと比較したら遊歩道とか津波避難路が欠落して使えないようだ。散策マップを利用してコースを考えるよ。オリエンテーリングは3日目に決行するからね」

島のサイクリング

きら 「いいい、今から何やるの？」
爺々 先ずは無料のレンタル自転車で島の北端までサイクリングだ！」
きら 子供用自転車もあるの？」
爺々 あるはずだよ、ないときは大人用でがんばろうよ」
来生 ぼく、みんなと一緒にいきたいから大人の自転車を練習する！」

島で車が走れる道路は海岸通と丘陵部の耕作地を縦貫する農道の2本のみ。遊歩道にも自転車も乗り入れても良く、タブや松の木が灼熱の直射をさえぎり走行は快適だ。

島の北端を目指して海岸通を走るが2km 足らずで急坂を登る。道路の最高点は65m くらいだから自転車を漕いで上ることが出来なくても登坂距離が短く、小1の来生も自転車を押して自力と工夫で登らせる。



北西の海岸段丘にある「なぎさの鐘」

3人は「なぎさの鐘」を突いた。午後5時を過ぎても太陽はまだ高く、快晴で水平線がはっきり見える。島の漁師が言うには「昨日の雨が空中のチリを落とし、今日は北風だから見通しが一番良いんだよ」。爺々はこの機会を逃さず日の入りを見せることに決めた。

グリーンフラッシュ

爺々 今日の日入りは6時半頃かな」
ゆき どうして？」
爺々 条件が良いからきれいな夕日と完全な日入りを見に行こう」
来生 ぼく、おなかすいたな」
きら らいき、ぼくだっておなか空いているんだぞ」

島南端の海水浴場に自転車を捨て、

曲がりくねったデコボコの海岸遊歩道を時間調整しながらお勤め夕日ビュースポット「南灯台」に向かう。

きら 「この灯台、何時に光るのかな」
ゆき 暗くなってからだよ」
来生 「いいい、まだ夕日沈まないよ」
爺々 「お日様の足が海に入ったらどどん沈んでいくのが分かるからね」
来生 「いいい、本当は地球が回っているんだよね」
爺々 「海が紅くなってるよ、ほら、太陽が水平線に隠れていくぞ！」
ゆき 隠れるスピードが速いね」
きら 「あっ！灯台が光ったよ！」
爺々 「あと数秒、太陽の隠れる瞬間を瞬きしないで見てくれ」
爺々 「見えた、グリーンフラッシュだ」
来生 緑がちょっとだけだったね」



とても珍しい気象現象を、どうやら、幸と綺羅は見逃したらしい。
時計は 18:49 を指していた。

三日目の朝

爺々 今日暑いけど綺羅と来生のためオリエンテーリングをします」
来生 「一人でやるの？」
爺々 地図は散策マップです、1 ポストまで幸が先頭でみんなは地図を見ながら現在地を確認しながら付いて行くこと。同じように2ポストまでは綺羅君3ポストにはらいちゃんが先頭で進んでください。ポストフラッグがあったら正解です」



綺羅 「この道は大きく曲がっているのに地図の道はまっすぐだよ」
爺々 国土地理院の地図はここで北にカーブしているから道のとおりに進んでいいよ」
爺々の独り言 『綺羅君は線状特徴物の

形状は確認できるようだね』

爺々 綺羅君、合格。次は来生君3番に連れて行ってください」
来生 3番は道の終わりだから簡単だ、じいし走っていいの？」
爺々 らいちゃん、その道は階段がある下り道で草が茂って滑りやすいので歩いていこうよ」

は荒磯。日本の渚百選の選定地で、ここから八幡崎まで約2.5kmの西海岸を環境省が平成19・20年度の2年間海岸漂着ごみ調査指定地とした。昨年9月と今年7月の調査には筆者も参加してあらゆるごみの除去活動をした。荒磯頸部にはトビシマカンゾウやクルマユリなどの植物群落がある

爺々 「に行くルートは数本あるよね。基本的には海岸ルートと山道ルートの2本だが、来生が海岸ルートを選んだので爺々と一緒にいこう。山ルートの綺羅には幸と一緒にくれ、どちらでも先に到着したらフラッグを設置しよう」

海岸ルートは草丈が高くクモの巣があって海岸に出るまでが大変だった。一旦、海岸に出ると漂着物がきれいに片付いて快適に進むことが出来た。しかし、海岸からの小道が草で覆われて入口が分からない。来生はしきりと地図で入口を捜している

山道ルートの二人は10分前に到着し心配顔で待っていた。



田下(たのしり)海岸で地図を読む

爺々 「二人とも地図を読んで進む方向はどうか分かるようだね、この地図は磁北線が垂直に引かれていないけど正置は出来るかな」
きら 地図の上にコンパスを置いて赤い針が上に来るようにするんだっけ？」
爺々 やっぱいつもと違うよね。幸、来生のも見てやってくれ。らいちゃん、現在地とこれから進む道はどの方向ですか」
来生 61に行くんだからこっちだ」
ゆき 来生、正解だね」
爺々 今度は距離を測るために歩測をやってみよう」

しかし、低学年の二人には複歩で数える意味をはじめ歩測で距離を算出することは難しいことだった。この修行成果は秋の大会で発揮されるでしょうか。幸兄々に続けるか？



四谷展望台で休憩のゆき/きら/らいき

楽しかったおまけの日

二日目、朝4時50分、漁港の向こうに昇る朝日を見た。



爺々 今日は10時まで夏休みの勉強したら午前中は海水浴に行きます。昼ごはんを食べて昼寝をしたら、その後は自由に何をやっても構わないよ」
来生 「ぼくは釣りをしたいな」
爺々 「よし分かった、竿を借りて餌を買ってこよう。ただし、爺々は釣りのことは全く分からないからね、来生一人で出来るかな」
きら 幸兄々、ぼくたちも行こうよ」
ゆき 面白そうだな、そこにあるバケツを借りて大漁で行くか！」
爺々 それでは皆で晩御飯のおかずを釣ってくるか」

シャワーや更衣室が備わり、屋根に日除けのスノコを張った休憩所がある海水浴場には、若者が3~4人と家族組が3組ほど、水はきれいで大小の魚が泳いでいるところを誰のじまもなくのびのびと遊べる別天地。

午後、約束どおり釣りに出た。瞬間に河豚が釣り上がった。掛かる河豚は小さいのでとても食用にはならない。入れ食いとはこのことを言うのか分かるような気がした。

ざっと50匹は釣ったようだが、これも来生の提案だが結局全部海に返して皆は満足して釣り遊びを終わった。

(武石雄市)